新宿区教育委員会会議録

令和５年第２回臨時会

令　和　５　年　７　月　１　４　日

新宿区教育委員会

令和５年第２回新宿区教育委員会臨時会

日　　時　　令和５年７月１４日（金）

　　開会　　午後　１時３０分

　　閉会　　午後　４時０３分

場　　所　　新宿区役所６階　第４委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教育長	針谷弘志	教育長職務代理者	山下浩一郎
委員	古笛恵子	委員	星野　洋
委員	年綱和代	委員	鴨川明子

説明のため出席した者の職氏名

次長	遠山竜多	教育調整課長	齊藤正之
教育指導課長	坂元竜二	総括指導主事	北中啓勝
指導主事	鈴木智子	教科用図書検討委員会委員	馬場園和也
理科調査委員会委員長	樺沢一彦	社会科調査委員会委員長	中里満晴
生活科調査委員会委員長	久保田恵美	外国語科調査委員会委員長	宇山幸宏

書記

教育調整課主査	林　竜佑	教育調整課管理係	大原颯人

議事日程

協　議

１　令和６年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について（教育指導課長）

午後　１時３０分開会

◎　開　　会

○教育長　それでは、ただいまから令和５年新宿区教育委員会第２回臨時会を開会いたします。

本日の会議には、全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録の署名者は、星野委員にお願いいたします。

○星野委員　かしこまりました。

◆　協議１　令和６年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について

○教育長　本日は、協議１　令和６年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択についての協議を行います。

なお、本日、議事はございません。

今回の教科用図書採択では、令和６年度に使用する区立小学校の全ての教科の教科用図書について絞り込みを行い、採択を行います。

なお、採択した教科用図書を使用する期間は、令和６年度から令和９年度までの４年間となります。

初めに、今回の教科用図書採択の日程についてお諮りします。

教科用図書は、法令の規定に基づき、本年８月31日までに採択を行い、東京都に報告する必要があります。

具体的な採択の日程としましては、第４回定例会で御報告させていただきましたとおり、本日７月14日のほか、７月19日及び７月21日の会議で協議を進め、各種目の採択候補図書を１種に絞り込んでいきたいと考えています。そして、協議の結果を踏まえ、絞り込み理由の確認など議案を整え、８月４日の第８回定例会で御審議いただき、採択を行いたいと考えています。

なお、各臨時会における協議で１種に絞り込めなかった種目がある場合は、できる限りその次の臨時会で、予定されている種目の採択候補図書の協議の後、絞り込みを行いたいと考えています。その上で、予定の７月21日までに全ての教科用図書の絞り込みが行えなかった場合には、７月27日または７月31日にも御協議いただきたいと思います。

以上が採択の日程の提案となりますが、御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

よろしいでしょうか。

〔はいの発言〕

○教育長　特に御意見、御質問がないようでございますので、提案いたしました日程で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　ありがとうございます。

それでは、本年度の日程については、そのように進めさせていただきます。

次に、本日の協議の進め方についてお諮りします。

本日は、まず事務局から報告を受けます。

次に、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、教科用図書を専門的に調査した教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席を要請し、指導要領や教科の特性などの説明を受け、教科用図書の調査検討の結果について質疑を行います。

最後に、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

以上が、本日の協議の進め方の御提案となりますが、いかがでしょうか。

○山下委員　教育長の御提案どおりで結構かと思います。

○教育長　ありがとうございます。

山下教育長職務代理者から御発言をいただきましたが、ほかに御意見、御質問はありますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　御意見、御質問がなければ、提案のとおり進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　ありがとうございます。

次に、協議を行う種目の日程を確認させていただきます。

本日７月14日に理科、社会、地図、生活、英語を、７月19日に音楽、国語、書写、算数、保健を、７月21日に家庭、図画工作、道徳の協議を行うことでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　ありがとうございます。

以上で、当面の日程と採択までの手順を確認いたしました。

なお、会議の進め方の詳細につきましては、今後協議していく中で、必要に応じて皆様と決めていきたいと思います。

それでは、事務局からの報告を受けます。

まず初めに、教科用図書採択に係る要望書等及び教科書展示会でのアンケートについて報告をお願いします。

なお、説明については着座でお願いをいたします。

○教育調整課長　教育委員会に寄せられました教科用図書採択に係る要望書等及び教科書展示会で行ったアンケートの回答につきましては、各委員に配布をさせていただいているところでございますが、教科用図書採択に係る要望書等につきましては、１団体から計２件の要望書等を頂いております。

また、教科書展示会につきましては、６月１日から６月14日まで特別展示を実施し、６月15日から６月28日まで法定展示を実施をいたしました。

なお、教科書展示会会場でのアンケートの回答総数は33件となっております。

報告は以上となります。

○教育長　要望書等及びアンケートについての報告が終わりました。

なお、要望書等及びアンケートの回答につきましては、教育委員の皆様に事前にお配りし、御覧いただいておりますが、教科書採択は、教育委員会の判断と責任において公正かつ適正に行う必要がございますので、採択結果をもって、いただいた御要望等へのお答えとさせていただきます。

次に、教科用図書検討委員会における総括的な検討経過、検討の視点、検討結果について、担当する教育委員会事務局職員から報告を受け、それについて質疑を行います。

それでは、報告をお願いします。

○指導主事　教育指導課指導主事でございます。私から初めに、検討委員会における検討日程について申し上げます。

５月19日、第１回の検討委員会におきまして、教育長より検討依頼がありました。検討日程、検討委員の役割を確認いたしました。12名がここで検討委員として指名を受けました。第２回の検討委員会は、６月26日に行いました。学校調査結果及び調査委員会調査結果を基に、理科、社会、地図、生活、英語について検討を行いました。第３回の検討委員会は、６月30日に行いました。同じく、学校調査結果及び調査委員会調査結果を基に、音楽、国語、書写、算数、保健について検討を行いました。第４回検討委員会は、７月３日に行いました。

６月30日に、検討が終了しなかった保健について検討するとともに、これまでと同じく、学校調査結果及び調査委員会調査結果を基に、家庭、図画工作、道徳について検討を行いました。

また、検討委員会調査報告書の文言の最終検討等もここで行いました。

以上のように、４回の検討委員会を経て検討を行ってまいりました。

次に、採択候補の総点数について申し上げます。

国語３種、書写３種、社会３種、地図２種、算数６種、理科６種、生活７種、音楽２種、図画工作２種、家庭２種、保健６種、英語６種、道徳６種の計54種259冊ということでございますが、１者、実際には信州教育出版社が見本本を提出しなかったために、52種253冊の検討を行いました。

次に、検討委員会における協議の方針を申し上げます。

学校調査と調査委員会調査の結果を踏まえながら、検討委員会として独自の評価を行いました。検討の結果、場合によっては、調査委員会調査結果と評価が異なる場合があります。具体的に、保健に関しましては、調査委員会結果と検討委員会結果が出した結果が異なっております。

検討委員会では、評価に際し、優れている点を分析いたしました。具体的にページを開きながら、それはどこを指しているのかということを検討委員が一つ一つチェックをして見ていき、これを確認いたしました。

教科書を参照しながら、内容から使用上の便宜等について、４項目の内容について検討に当たりました。検討委員会として独自の意見をそれぞれの方からいただき、それらを参考に評価をいたしました。学校調査結果でＡが多く、調査委員会結果がＡならば、Ａを基本とするようにいたしました。

次に、検討委員会報告書の見方ですが、国語から道徳まで種目ごとに１ページにまとめてあります。意見欄は、検討委員の意見を基に、調査委員会の総合的な意見を加味して作成しました。

意見欄については、評価がＣよりもＢ、ＢよりもＡの記述が多くなっております。それだけ優れている点があり、採択にふさわしいと考えることから、記載が多くなされているということです。斜線になっている欄は、見本本の提出がなかったために評価ができなかったことを示しております。これは先ほど申し上げましたように、見本本の提示がなかった信州教育出版社のものです。

なお、各種目の調査報告書もお配りしています。

調査報告書、理科を御覧ください。

まず、資料をおめくりいただきますと、調査委員会からの報告書となります。しばらくおめくりいただきますと、小学校調査報告書になります。小学校が29校ありますので、29校中何校がＡ、Ｂ、Ｃの評価をつけたかを御覧いただければと思います。

また、それ以降のページについては、東京都教育委員会が作成した資料となります。東京都教育委員会は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第10条及び第11条の規定により、教科書の調査研究を行うこと、また、これに基づいて各区市町村に指導・助言をすることとなっております。そのため、本資料には、学習指導要領の目標等がまとめられています。こちらも併せて御参照ください。

それでは、それぞれの教科について補足説明をさせていただきます。

国語。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は教育出版と光村図書の２者でありました。学校調査の結果については、光村図書をＡ評価とした学校が16でした。これを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、光村図書は合理的配慮がなされ、どの子にとっても使いやすい教科書になっている。学習の仕方、流れが明示してあるので、経験の浅い教員や国語を苦手とする教員にとっても使いやすいなどの理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、光村図書１者でした。

書写。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は東京書籍と光村図書の２者でした。学校調査の結果では、光村図書をＡ評価とした学校が17でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、光村図書は他教科や日常生活に生かせる内容が取り上げられていて、文字を書くだけでなく、「書きたい」と思わせる内容である。「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の学習過程が全学年で共通している等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、光村図書１者でした。

社会。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は教育出版１者のみでした。また、学校調査の結果では、東京書籍をＡ評価とした学校が13、教育出版をＡ評価とした学校が12でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、教育出版は社会科の問題解決的な学習の流れが丁寧に示されており、分かりやすい。問いを生み出すための資料が多く使われていて良い。問いをもった後、教科書を見ながら児童が主体的に学習を進めることを大切にした構成が、児童にも教員にも使いやすいとの理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、教育出版１者でした。

地図。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は帝国書院１者のみでした。また、学校調査の結果では、帝国書院をＡ評価とした学校が16でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、帝国書院は見やすさ、分かりやすさが圧倒的で、特に土地の高さや土地利用は大変分かりやすい。情報量が適切で見やすく、見つけたいものがすぐに見つけられるとの理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、帝国書院１者でした。

算数。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は東京書籍１者のみでした。また、学校調査の結果では、東京書籍をＡ評価とした学校が18でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、東京書籍はどの学年でも、学習のつながりが分かりやすい構成となっていて、いつどこで学習したことが使えるのかが振り返りやすい。友だちの考えの良さを自分の考えと照らし合わせて考えを深めるところが良い等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは東京書籍１者でした。

理科。調査委員会調査の結果では、大日本図書、教育出版の２者がＢ評価でありました。４つの観点の評価は、大日本図書はＢ４つ、教育出版がＢ３つ、Ｃ１つでした。学校調査の結果については、大日本図書をＡ評価とした学校が13でした。これを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、問題→予想→計画→実験→結果→考察→結論の構成など、問題解決の学習の流れに沿った構成になっている。児童が自分の力で学習を進められる構成になっている。また、理科を専門としない教員にとっても、教科書の流れに沿って指導しやすい等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは大日本図書１者でした。

生活。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は光村図書１者のみでした。また、学校調査の結果では、東京書籍をＡ評価とした学校が13、光村図書をＡ評価とした学校が同じく13でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、光村図書は児童が自ら見通しをもてるように内容構成が組まれており、振り返りまで思考がつながるようになっている。児童の関心を引きつけるインパクトのある表現がされている。発想を豊かに広げられるような工夫が見られる等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、光村図書１者でした。

音楽。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は教育出版１者のみでした。また、学校調査の結果では、Ａ評価とした学校は教育出版、教育芸術社ともに10でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、全体を通してやさしい雰囲気の挿絵や迫力のある写真等が

扱われているので、曲想のイメージをもちやすく、児童の表現力の向上につながる。全体的に見やすく分かりやすいため、児童自ら教科書を活用して練習や復習ができる等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、教育出版１者でした。

図画工作。調査委員会調査の結果では、日本文教出版がＡ評価でした。学校調査の結果では、Ａ評価とした学校は開隆堂出版、日本文教出版ともに16でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、日本文教出版は情報が精選されており、題材の本質が伝わりやすい。子どもの作品が豊富に掲載されていて、作品作りの参考になる。道具の使い方、学習の流れ、怪我の防止等について記載されており、授業で使いやすい等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、日本文教出版１者でした。

家庭。調査委員会調査の結果では、開隆堂がＡ評価でした。学校調査の結果では、Ａ評価とした学校は東京書籍、開隆堂出版ともに９でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、開隆堂出版は調理実習、裁縫実習の図解が見やすく大きく配置されており、児童の活動に即している。手順がスモールステップで記載されていて分かりやすい等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、開隆堂出版１者でした。

保健。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は大修館書店と光文書院の２者でした。また、学校調査の結果では、Ａ評価とした学校が東京書籍と学研で10でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、東京書籍は各章において４ステップでの構成が統一されており、毎時間同じ構成のため、学びやすい。性の多様性についての記載、障害者理解に関する表記、悩み相談先の記載等があり、新宿区の実態に合っている等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、東京書籍１者でした。

英語。調査委員会調査の結果では、Ａ評価は開隆堂出版と教育出版の２者でした。また、学校調査の結果では、東京書籍をＡ評価とした学校が13でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、教育出版は活動の自由度が高く、児童や教師の必要感や思いを取り入れやすい。児童が英語に興味関心をもてるような内容である等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、教育出版１者でした。

道徳。調査委員会調査の結果では、東京書籍、光村図書、日本文教出版、学研の４者がＢ評価でありました。４つの観点の評価は、東京書籍がＡ１つ、Ｂ３つ、光村図書がＢ３つ、Ｃ１つ、日本文教出版がＢ４つ、学研がＢ３つ、Ｃ１つでした。学校調査の結果では、日本文教出版をＡ評価とした学校が13でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結

果、日本文教出版は教材は現代的な課題が掲載されるなど、児童が興味をもって読んだり考えたりできる内容となっている。「国際理解」など新宿区に合った内容もあり、良い。ノートの内容が改訂されており、使いやすくなっている等の理由から、優れている点が多いと判断し、検討委員会でＡ評価としたのは、日本文教出版１者でした。

○教育長　教科用図書検討委員会における総括的な検討経過等についての報告が終わりました。本年度の検討経過のうち、総括的な部分につい御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　特に御意見、御質問がなければ、次に、教科用図書調査委員会の各教科委員長に御入室いただきます。

〔教科用図書調査委員会の各教科委員長　着席〕

○教育長　それでは、協議の進め方ですが、専門的に調査検討を行った教科用図書調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに「指導要領の中での目標」「教科の特性等」「調査委員会における調査の内容」「そのほか評価を決定する上での主な議論」などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会から説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、まず、理科について御説明をお願いいたします。

○理科調査委員会委員長　理科調査委員会委員長、大久保小学校の樺沢です。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、教科書を選定する上での視点について話させていただきます。

今の学習指導要領の総則では、各教科の見方・考え方を働かせて学習の過程を重視し、その充実を図ることが求められています。理科の学習指導要領では、目標は、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目指すとあります。この目標に照らし合わせ、理科の見方・考え方を働かせて、資質・能力がよりよく育成できる教科書であるかどうかが、選定をする上での大きな視点となります。

理科という教科は、子どもたちは３年生で出会うこと、そして学習の対象は自然の事物・現象であることが特性として挙げられます。

理科の授業では、子どもたちが自然事象に対して疑問をもったり、それを問いの形で文章化したりすることや、その疑問点などに自分なりの思いや考えをもちながら、問題解決を図ることができるように学習活動が計画されています。

次に、調査の内容と評価を決定する上での主な議論についてです。

調査委員会では、評価の４つの観点のほか、子どもたちにとって問題解決学習をしやすいか、理科に不慣れな教員が授業を行いやすいかという観点も加味いたしまして、Ａ、Ｂ、Ｃで評価させていただきました。

総合評価としまして、学校図書、啓林館、東京書籍はＣ、大日本図書、教育出版はＢと評価をつけさせていただきました。

以下、各発行者の所見についてポイントを見方・考え方、問題解決学習、教師側の視点、そのほかに絞って何者か話をさせていただきます。

まず、見方・考え方についてです。

大日本図書では、「見方・考え方」を働かせる場面では、「ココに注目」と記載があり、児童が意識をもって取り組めるような工夫があります。

教育出版では、吹き出しに書かれている内容に、さらに「〇〇のカギ」などと色づけがされていて、その単元や学年で働かせたい見方や考え方が分かるようになっています。

次に、問題解決学習についてです。

大日本図書では、３年生の表紙の裏に、問題解決の過程においてどのような考え方で思考していくかという３年生の大切な比較の「考え方」を働かせられる写真と問いがあり、理科の学習をスタートする際の意識付けがされています。

次に、教師側の視点についてです。

大日本図書では、問題作りの場面でどのように話し合ったら良いか（板書計画のようなもの）が挿絵で描かれていて、見通しがもてるようにされています。また、結果をまとめた板書が載っており、教師が結果考察を指導する際のヒントとなっています。

東京書籍では、結果にばらつき、誤差が出たときの指導上のフォローが十分にされています。

次に、そのほか、各発行者の工夫についてです。

大日本図書、東京書籍では、教科書のサイズをＡ４にすることで、写真やイラストを大きく分かりやすくして、児童の興味・関心を高めるレイアウトになっています。

教育出版では、人体の実物大の内臓の様子が掲載してあり、イメージがつかみやすい工夫

が見られます。

啓林館では、動画や資料がある場合は、すぐそばに二次元コードがあるので、使いやすくなっています。

総じて、大日本図書は、新宿区立小学校教育研究会理科部が進める学習の流れ、問題→予想→計画→実験→結果→考察→結論という構成。子どもたちの問題解決学習に沿っていると感じました。

教育出版は、子どもがふだんの生活場面で感じる問題を見いだしたり、予想を立てたりしながら、主体的に理科の学びが進むように全体を構成している工夫が見られます。

東京書籍は、各学年とも、ゆとりをもって学習が進められるような分量となっています。

学校図書は、確かな学びにつなげる振り返りを意識した教科書構成になっています。

啓林館は、問題解決のステップを「学びのライン」でつなぎ、見通しをもちやすくしています。

以上、５者の教科書を読ませていただき、総合評価でのＢ評価は、大日本図書、教育出版の２者となりましたが、評価の４観点で評価した結果、調査委員会としましては大日本図書が最も高い評価となりました。

○教育長　説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　特に御意見、御質問がないということですので、続いて、社会についての御説明をお願いいたします。

○社会科調査委員会委員長　社会科調査委員会委員長、落合第四小学校の中里満晴です。

まず、社会科の目標ですが、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指すものです。

（１）地域や我が国の国土の地理的環境、現在社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、さまざまな資料や調査活動を通して情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけるようにする。

（２）社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選

択・判断したことを適切に表現する力を養う。

（３）社会的事象について、より良い社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々とともに生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

以上でございます。

今回の教科書を拝見しまして、各発行者とも問題解決的な学習が展開できるような工夫がされたつくりとなっておりました。

まず、東京書籍です。問題解決的な学習が効率よく行えるような構成になっており、児童が主体的に取り組むことが期待できます。また、「ひろげる」項目で、発展的な内容も多く示されておりました。社会参画が意識されていると感じました。

「まとめる」段階で、多様な方法が例示されており、教師が授業するときに大変参考になるものになっております。また、補足的な部分を「ことば」や図、表などで補っており、分かりやすいつくりとなっております。

続いて、教育出版です。社会科の問題解決的な学習の流れが丁寧に示されており、大変分かりやすい構成です。

学習過程が分かりやすく、つなげる段階ではその単元の課題の資料があり、違う視点で考えられるように工夫されております。大きな写真やイラストで児童にも分かりやすいです。

問いを生み出すための資料が多く使われていることも、特徴の一つです。

また、教科書を見ながら、児童が主体的に学習を進めることを大切にした構成となっており、児童にも教師にも使いやすいと思います。

最後に、日本文教出版です。資料が大きく、分かりやすく示されています。また、児童が選んで活用することができるような構成にもなっております。

ＳＤＧｓとの関連が特集されており、社会科の学習をきっかけにして、総合的な学習の時間につなげる学習計画も考えられる構成となっております。

以上、３者を総合的に判断した結果、東京書籍をＢ、教育出版をＡ、日本文教出版をＢとさせていただきました。

○教育長　説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

○古笛委員　前回の教科書採択では、ＳＤＧｓについてどのように取り上げているかということが議論になったように記憶しておりますが、今回はＳＤＧｓについて、それぞれの教科書

でどのように取り上げられていますでしょうか。

○社会科調査委員会委員長　どの教科書もＳＤＧｓについて取り上げておりましたが、特に細かい資料、詳しい資料というのは日本文教出版が多かったように思います。ただ、他発行者も同じようにＳＤＧｓに関する特徴的な資料が使われており、それぞれ各発行者で工夫されているなという感じを受けました。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

私からも１つよろしいでしょうか。東京書籍だけ、５年生、６年生は分冊となっていますが、これについて他発行者との比較ですとか、何か検討された内容があればお願いいたします。

○社会科調査委員会委員長　調査委員会の中で、分冊と合冊のどちらが子どもにとって使いやすいだろうかという議論になった際には、分かれていることで以前学習した内容を見返すときにもう一冊がどこかに行ってしまったということが起きやすいのではないかという意見がありました。合冊になっているほうが学習の振り返りがしやすく、また、今までの学習の流れも確認しやすいことから、合冊のほうが子どもにとって良いのではないかという意見が多かったです。

○教育長　ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御意見、御質問がなければ、次に地図について御説明をお願いします。

○社会科調査委員会委員長　目標に関しては、社会科と同じですので、割愛させていただきます。

地図に関しては、２者挙がっております。１者目が東京書籍です。東京書籍は、写真、絵、図が豊富に使われており、分かりやすい構成となっております。各学年の単元に合ったミニマップも多数あるため、学習の際に資料に活用しやすいものとなっております。資料、図の情報も申し分なく、少ないページの中でよくまとまっているのが、東京書籍の特徴です。

続いて、帝国書院です。地図の見やすさ・分かりやすさは圧倒的で、土地の高さや土地の利用が大変分かりやすいということが１点挙がっています。また、浄水場の場所、ペリーの航路など、各学年で活用したい項目がマークで地図に入っており、子どもたちにとって大変見つけやすいつくりとなっておりました。

また、見開きを使った資料ページが豊富で、情報量も申し分ありません。

領土問題やＳＤＧｓにもしっかりと触れており、活用しやすい地図となっていると考えます。

以上から、東京書籍を総合評価Ｂ、帝国書院を総合評価Ａとさせていただきました。

以上で終わります。

○教育長　説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

○山下委員　地図帳ということで、社会科と一緒に使うことが多いと思うのですが、社会科の発行者と同じほうが使いやすいですとか、そうではないということはございますでしょうか。

○社会科調査委員会委員長　発行者に関しては大きな違いはないかと思いますが、３年生で最初に手に取る地図帳という観点からしますと、帝国書院は出だしの情報量がきちんと制限されておりまして、たくさんの情報量を盛り込み過ぎない、つまり２年生からの引き続きの学年として、あまりたくさんの情報量を盛り込み過ぎないで、文字も大きく作られております。その点が、帝国書院のほうがより分かりやすい構成になっているかと思います。

○山下委員　ありがとうございます。

○教育長　よろしいでしょうか。

○山下委員　はい。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御意見、御質問がなければ、次に生活について御説明をお願いします。

○生活科調査委員会委員長　生活科調査委員会委員長、淀橋第四小学校、久保田恵美です。よろしくお願いいたします。

まず、生活科の目標は、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指すとされています。

身近な生活に関わる見方・考え方とは、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりの中で捉え、より良い生活に向けて思いや願いを実現しようとすることです。

生活科の特性として挙げられるのは、１点目、児童の学習の場が生活圏であるということ、２点目、具体的な活動や人との関わりを通して自分自身とつなげることで、集団の中での自分の在り方、そして自分の成長や、良さに気づくことが挙げられます。

これらを踏まえて、生活科調査委員会では、学習の過程、協働、自分とのつながり、そして教育課程上、総則にも示されている各教科等とのつながり、幼児教育と小学校低学年で育

成する資質・能力とのつながり、これらを議論の重点とし、調査を進めてまいりました。

それでは、調査委員会で話し合った結果について、お手元の報告書を基にお話をさせていただきます。全部で６者の教科書について調査いたしました。

まず１者目、東京書籍です。こちらはＢ評価とさせていただきました。

全体的に学習内容の定着を図るための文言が多く、教師も児童も教科書だけで取り組めるよう工夫されているのが特徴です。多様な家庭環境への配慮、そして、種や芽、花などの関連だけでなく、校庭や公園などイラストで季節の移り変わりを表現していて、児童自身が比較しやすくなっています。

次に、２者目、大日本図書です。こちらはＣ評価とさせていただきました。

予想される児童の気づきや学習カードの例が具体的に示されていることで、教師も児童も学習活動のイメージがもちやすい教科書になっていました。

次に３者目、学校図書です。こちらもＢ評価といたしました。

身につけさせたい力が種類ごとに巻末に示されているため、特に経験のない教師にとって活動の見通しがもちやすい形になっていました。

また、学ぶ力をつけるための技として、「まなびかたずかん」が掲載されております。連動させていることで、児童が必要に応じて活動できるようになっています。

次に、４者目、教育出版です。何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかが各単元の頭に示されていることで、小学校低学年で育成する資質・能力を意識しながら指導することかできるのが特徴です。

そのほか、板書や掲示物、ワークシートなど、具体的に示されているとともに、「わくわくスイッチ」が記載されていることで、次の活動への意欲づけ、円滑な接続を図ることができると感じました。

５者目、光村図書です。こちらはＡ評価としました。

現行の指導要領改定のポイントとしても挙げられている、低学年らしい思考や認識を大切にした内容構成となっております。

具体的には、「見出し→めあて→見通し→ふりかえろう」と、学びの過程を重視したつくりになっており、１時間の流れがページ見開きで常に統一されていることも高く評価できます。思考が整理され、見通しがもちやすいつくりになっています。

また、学びに欠かせない協働的な学習、人との関わりを重視していること、そして幼稚園教育と小学校教育で育成する資質・能力のつながりを大事にされていることが感じ取れます。

最後に６点目、啓林館です。こちらはＢ評価としました。

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続、特にスタートカリキュラムのページが位置づけられていることが特徴です。

また、全体を通して原寸大の写真や図鑑など、見て参考にする際の資料として活用することができるつくりになっていました。

以上、総合的に判断いたしまして、５点目、光村図書をＡ評価とさせていただきました。どの教員にとっても単元構成や活動の様子が分かりやすく、授業を進めやすいこと、児童期の終わりまでに身につけさせたい10の姿と同様に、自立、協働、思考とのつながりを意識して、主体的に自己を発揮する場面を意図的につくる流れになっておりまして、教師にとっても保護者にとっても、生活科における学習のねらいや身につけたい力が明確でありました。

児童が進んで読みたくなる表現やイラストが多いため、活動の中で児童が自ら活用できるようになっていました。

また、上巻初めの部分は、幼児期からの移行と次の学年へのつながりを意識しやすい構成になっていました。

最終的に、調査委員会として総合的に判断した結果、光村図書をＡ評価といたしました。

○教育長　説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

○山下委員　先ほどの理科のときにも気になったのですが、不慣れな教員も授業を行いやすいということを生活科でもおっしゃっていましたが、生活科という科目は、慣れていない教員にとって指導が難しい科目なのかということを教えてください。

○生活科調査委員会委員長　生活科の狙いは各地域に根差しているということ、学習圏が子ども自身の生活圏であり、各学校、地域によってさまざまに内容が変わってくる部分であること、それが生活科を指導する教員にとって難しく感じる部分であると思います。そのため、光村図書のように見出し→めあて、それから見通し→振り返りと、特に見開き１ページで統一されていることが、経験の少ない教員にとって分かりやすい教科書となっていると考えます。

○山下委員　ありがとうございます。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

関連でお伺いしますが、教える側にとって見開きで分かりやすいということは、入学したばかりの小学校１・２年生にとっても学びやすいということでしょうか。

○生活科調査委員会委員長　そのように思います。子どもは机の範囲が限られていますので、

教科書を開いて１ページにまとめられているということは、思考の整理もしやすく、学習しやすいと考えます。

○教育長　ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御意見、御質問がなければ、次に英語について御説明をお願いいたします。

○外国語科調査委員会委員長　英語の調査委員長を務めました、東戸山小学校長、宇山幸宏です。よろしくお願いいたします。

外国語科は、前回の教科書採択から新たに教科書が作られた教科になります。小学校学習指導要領に示されました外国語科の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すとあります。

また、新宿区においても、新宿区教育ビジョンに小学校における英語教育で低学年から英語に対する興味・関心を高め、身近な言語として感じ、また、英語を活用し積極的にコミュニケーションを図ることができる能力を高めることが重要と示されており、全学年に対し、外国人英語教育指導員を活用した質の高い授業を展開できる学習環境をつくっていただいております。

このことを踏まえ、調査委員会では６者の教科書を調査いたしました。調査の観点は、他教科と同様となりますが、まず第１に、児童が英語に親しみやわくわく感をもって、英語を学ぶことが今まで以上に好きになっていくことを重視していくこと、次に、教員が教えやすく、英語の指導経験にかかわらず45分間で１ユニットを教えられるかどうかを検討の視点として大事に考えてきました。

そういう観点で教科書を調査させていただきました。詳細につきましては、調査報告書を御覧いただければと思います。

まず６者ということで、最初、東京書籍につきましては、書く活動が学習の流れに沿って配置されているので、巻末まで移動する必要がなくなった。それからノート等も用意しなくても指導ができる。また、話題が多角的で、インクルーシブ教育の一助にもなりそうであるという意見から、評価をＢといたしました。

２者目、開隆堂出版につきましては、「見る→やってみる」「聞く→やってみる」の流れが出来上がっており、学んだことをすぐに生かすことができ、定着しやすい。中学校への英語学習への系統性が感じられるという意見から、評価をＡとしました。

３者目の三省堂につきましては、映像や音声を用いる学習が多く、聞く力、意味を想像する力を養うことができる。見やすさという点ですばらしい。クラスの実態に合わせアレンジしやすそうであるという意見から、評価をＣといたしました。

４者目の教育出版、活動の自由度が高く、児童や教師の必要感や思いを取り入れやすい。聞く活動に力点を置いた授業がつくりやすい。別冊で辞書などもあり、自分で調べやすいという意見から、評価をＡといたしました。

５者目ですが、光村図書につきましては、「見る→聞く→やってみる」の順番で学習ができ、段階的に難易度を高めているため、児童にとっては積み重ねが容易で、教師は児童のつまずきを捉えやすい。また、振り返りが１ページにまとまっていることで、変容が見取りやすくなっているという意見から、評価をＣといたしました。

最後、啓林館につきましては、絵や文などの配置が見やすく、内容を整理しやすい。話すことに重点を置いた授業がつくりやすく、小学生の話す、聞く活動が十分にできるという意見から、評価をＣとさせていただきました。

調査委員会では、教育出版と開隆堂出版が評価Ａ、東京書籍が評価Ｂ、三省堂、光村図書、啓林館は評価Ｃとさせていただきました。

教育出版と開隆堂の２者をＡ評価といたしましたが、調査委員長といたしましては、その後開催された検討委員会の結果を支持していきたいと考えております。

以上でございます。

○教育長　説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

○星野委員　小学校で初めて英語を学ぶ場合に、話す・聞く・読む・書く４つの中で、最も重視するのはどれでしょうか。

○外国語科調査委員会委員長　小学校３・４年生の外国語活動では、聞く・話すということから目標になっておりまして、その後、５・６年生になると読む・書くということが入ってきますので、そういった段階を考えますと、やはりしっかりと聞く、そして話すということから学習していくのが良いのではないかと考えます。

○星野委員　分かりました。

○教育長　ほかにいかがでしょう。

○山下委員　１つよろしいですか。実際の英語の授業の中で、教科書の使用頻度はどれぐらいなのでしょうか。きっちりと教科書に沿って教えるのか、それとも先生がオリジナルで英語の歌ですとか、そういったものを取り入れながら教えるのか、実際の授業としてはどちらが多いのでしょうか。

○外国語科調査委員会委員長　本当に最近の教科書はよくできておりまして、教科書に沿って学んでいけば楽しくできるように、どの発行者も工夫していただいておりますので、多くの教員は、教科書に沿って授業を行っているものと思っております。

○山下委員　ありがとうございます。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

○鴨川委員　御説明、ありがとうございます。５年生と６年生の外国語というのは、私の理解では、結構子どもの状況によって差がついているものと認識しているのですが、学力という意味でも取組という面でも、他教科に比しても、そういう理解で構いませんでしょうか。

○外国語科調査委員会委員長　個人差というのはどの教科でもあると思いますが、やはり小学校段階で英語がつまらなくなったり嫌いになったりして、中学校に進学するというのは良くないことだと思っていますので、教科書も子どもたちが楽しく活動できるような教科書を選択していきたいと考えまして、調査をしてまいりました。

○鴨川委員　ありがとうございます。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御意見、御質問がなければ、これで「学習指導要領の中での目標」「教科の特性等」「調査委員会における調査の内容」「そのほか評価を決定する上での主な議論」などについての質疑を終了いたします。

ここで、教科用図書調査委員会の各教科委員長には、御退席をいただきます。委員長の皆様、ありがとうございました。

〔教科用図書調査委員会の各教科委員長　退席〕

○教育長　続いて、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、まず、理科について説明をお願いいたします。

○統括指導主事　検討委員を務めました教育指導課統括指導主事でございます。

それでは、理科についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もＡ評価が多かったのは大日本図書で、29校中13校がＡ評価でした。調査委員会での調査結果は、大日本図書と教育出版が総合評価でＢでした。検討委員会の中では、大日本図書をＡ評価としました。その理由、意見としまして、問題→予想→計画→実験→結果→考察→結論の構成など、問題解決の学習の流れに沿った構成になっている。それから、児童が自分の力で学習を進められるつくりになっている。また、理科を専門としない教員にとっても、教科書の流れに沿って指導がしやすいなどの意見が挙げられました。

また、検討委員会では、他発行者に関する意見として、例えば教育出版では、単元配列や観察、実験の方法などを工夫し、ゆとりをもって学習が進められるような分量となっているなどが良い点として挙げられていました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でＡ評価が最も多く、調査委員会評価でも評価の高かった大日本図書をＡと評価いたしました。

○教育長　説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いいたします。

○古笛委員　ありがとうございます。大日本図書について、問題→予想→計画→実験→結果→考察の問題解決のプロセスを徹底しているという御意見をいただいたのですが、素人である私からしますと、他発行者の教科書もそういう構造になっているのではないかと感じたのですが、あえて大日本図書でそこを指摘されたというのは、例えばどういった点でしょうか。

○統括指導主事　各発行者の教科書は、今お手元にございますでしょうか。

例えばですが、どの発行者も問題解決の過程は示されています。それで、大日本図書が検討委員会でも評価が高かったこととして、問題→予想→計画→実験→結果→考察の中で、例えば予想→計画ですとか結果の部分は、発行者によっては、単元によってそこがないものがあります。大日本図書については、全ての単元で今申し上げた過程が全て記載されていて、どの教員が指導しても、このプロセスを繰り返し単元で子どもたちに身につけさせることができるのではないか、そうした意見がございました。

○教育長　よろしいですか。

○古笛委員　ありがとうございます。

続けてよろしいでしょうか。教科書の大きさについてなのですが、大きくて良いんだという意見が先ほど出ておりましたが、逆に大きくて大変だということはないのでしょうか。子どもたちにとって、大きくて大変ですとか、かばんに入らないとか、荷物になるとか、そう

いった問題はないのでしょうか。

○統括指導主事　大きさのことも検討委員会では話題になりました。この際に学校調査では、例えば東京書籍と大日本図書はＡ４判で、そのほか小さいサイズになっているのですが、小さいサイズはもち運びがしやすいという評価が学校からも寄せられています。一方で、大きなほうは、先ほど委員もおっしゃったように見やすい、インパクトがあるという意見がありました。実際子どもにとってどちらが良いかと考えたときに、今学校としては、使用しない教科書は学校に置いて帰れる、そういった事情ですとか、ランドセルもＡ４判に対応しているということを踏まえますと、見やすさ、インパクトなど、子どもの学びやすさを重視したほうがより良いのではないかという意見が出ました。

○教育長　よろしいですか。

○古笛委員　ありがとうございます。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

教科書の大きさや重さの話が出ましたので、全教科に関連してのことでお尋ねさせていただきますが、先ほども分冊か合冊か、あるいは大きい教科書、小さい教科書、というのは話題に出ていましたが、教科書のデジタル化ということについて、検討委員会の中で話題になりましたでしょうか。

○統括指導主事　教科書のデジタル化については、検討委員会ではあまり話題とはなっておりません。英語に関しては少し話題になったこともありましたが、その他の教科については、デジタル化という部分では、意見はありませんでした。デジタルに関しては、二次元コードの配置ですとか、使いやすさといったことについては話題になりました。

○教育長　検討委員会の中ではあまり話題にならなかったとのことですが、今後の教育と言いますか、指導を進めていくにあたって、デジタル化についてどのようにお考えか、少し教えていただけますでしょうか。

○教育指導課長　私も検討委員会に参加しておりましたのでお答えさせていただきます。ただ今統括指導主事からございましたとおり、大きな話題にはならなかったのですが、やはり今後、紙の教科書を基本としながら補助的にデジタル教材を使っていくことになろうかと思います。子どもたちの考えを養うには、デジタルと紙の両方を使って進めていくことが効果的ではないか、有効的ではないかと考えておりますので、教育委員会事務局といたしましても、デジタルの活用の仕方も併せて、今後研修会等を実施するなどして、教員の授業力・指導力向上に努めていきたいと考えております。

○教育長　ありがとうございます。全般的な話に広げてしまい、すみませんでした。

話を戻しまして、理科のことで御質問がある方いらっしゃいましたら、よろしくお願いいたします。

○山下委員　理科の教科書を見ていますと、物質・エネルギーと生命・地球の２分野に分かれていますが、先生方が教えるときにどちらが教えやすいか、逆に言うと、どちらが教えにくいということはあるのでしょうか、それともどちらもあまり変わらないのでしょうか。

○統括指導主事　教員ごとの得意、不得意ですとか、個々の教員によるところが大きいと思います。指導の難しさというのは、単元によっては、例えば物質・エネルギーでしたら、てこのところ、そういった内容を苦手とする教員もいれば、逆に燃焼や薬品を扱うような部分を苦手とする教員もおりますので、一概にこの単元が全ての教員が苦手であるというような捉え方はしておりません。

○教育長　よろしいですか。

○山下委員　はい。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

○星野委員　理科の場合は、やはり実験がメインになると思います。もちろん屋外ですとか、地方へ行かなければできないような観察等は難しいと思いますが、実験室でできるような実験について、教科書にはたくさん載っていますが、実際にどれぐらい授業でこなせるものなのでしょうか。と言うのも、実験の流れが一通り全て載っている教科書もあれば、途中経過が載っていなくて実際に実験をやってみないと分からないような書き方をしている教科書もあります。教科書に載っている実験について、全て授業でこなせるのであれば途中経過がなくてもいいのですが、全てはやりきれないのであれば一通り載っている教科書のほうが自分で勉強できるので良いだろうと思います。実際、授業ではどのくらいの実験がこなせているのでしょうか。

○統括指導主事　実際にどれくらいというのは、調査しているわけではないですが、小学校の教科書に載っている基本的な実験については、全て行っているものと捉えております。ただ、中には、例えば地層ですとか、太陽の動きですとか、天候や学校の立地に左右されるものについては、博物館等の施設や、あるいは映像資料を、実際の観察に代えて学ぶということはあるかと思います。また、資料を使うこともあります。よく地質学で取り上げる岩石ですとか、そういったものについて、資料を見ることで観察に代えるということもございますが、基本的な実験として教科書に記載されているものは授業で行っているものと事務局は捉えて

おります。

○教育長　ほかにいかがでしょう。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御質問がないようでしたら、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。それでは、最初に山下教育長職務代理者からお願いいたします。

○山下委員　理科についてはすごく迷いました。なぜかというと、先ほど質問させていただいたのですが、発行者によって、思いがそれぞれ違っていて、どこを重視するかによって教科書のつくりは変わるだろうと思ったからです。

例えば、大日本図書で言いますと、６年生の57ページでは、しおれていた花に水を与ええる観察が載っています。しおれている状態から水を与えるまでが４こまカットになっていて、しかも何時間でこうなりますよというのが書かれており、非常に力を入れているなと感じました。実際の実験では３時間ずっと見ていられないので、それを教科書にきちんと書かれているというのは、小学生の子どもたちにとってすごく分かりやすいと思います。

また、例えば66ページには、葉の裏側の写真があります。これは多分蒸散の単元だと思うのですが、いろんな植物の葉っぱの裏の気孔が載っています。これも他の発行者ですと、１種類の写真だけだったり、小さなイラストだけだったりします。先ほど星野委員の質問にもありましたが、もし実験ができなくても、教科書を見ながら自分で学習することができ、とても良い教科書だなと思いました。

ただ、その反面、いわゆる昔で言う物理・化学の分野になりますと、少しソフトになっているように感じました。教育出版と比較してみたのですが、例えば水溶液の単元で、大日本図書が106ページ、教育出版だと150ページになりますが、教育出版では５種類載っています。また、細かいところですが、教育出版は薄い塩酸と書いているところを、大日本図書は塩酸と書いています。実験について見ていきますと、教育出版は５種類の水溶液の違いを追っていくのに対して、大日本図書は、１種類に絞って載せています。実際の実験がしやすいようにあえてそのようにしているのだと思うのですが、教育出版は一つ一つ水溶液をチェックしていきます。理科好きの子どもは多分教育出版のほうが楽しいだろうと思います。では、実際の授業の中で、５種類の実験をすべてでできるかというと、実際なかなか難しいだろうと思いますので、そこは悩みました。

あと、教育出版の152ページには、水溶液の安全の取り扱い方といって、しっかりと注意

事項が書かれていて、こちらは科学実験にすごく力を入れているんだなというのが分かる構成になっていました。

後ろの表４というところですか、ここも、大日本図書は地形なのに対して、教育出版は理科の安全の手引という、思いの入れ方が違うなと思いました。私は授業のやりやすさというところで評価したほうが良いかなと考えました。資料の149ページで見ると、実験の数では教育出版のほうが多くはなっていますが、大日本図書は、先ほどおっしゃっていましたねらいですとか、そういった部分を細かく載せている分、実験の数というのは少し少なくなっています。その反面、デジタルコンテンツの用意というところで、大日本図書と、それから東京書籍、学校図書が圧倒的に多くて、その辺のフォローアップは非常にできているなと思いました。

ということで、私は総合的に判断して、大日本図書の教科書が良いと思いました。

あと、１点気になったのが、これはここで言うことではないかもしれませんが、どの発行者の教科書かは忘れましたが、セミの抜け殻のチェックをしましょうというのが載っていました。その際に、アブラゼミとミンミンゼミの違いというのがあったのですが、普通素人では、アブラゼミとミンミンゼミの抜け殻のチェックは第２触角の長さの微妙な違いしかないので、小学生の教科書には不適切かなと思って見ていました。余談です。

○教育長　ありがとうございます。

○星野委員　私は、大日本図書を選びました。山下委員のように詳しいところまでは申し上げられませんが、やはり問題→予想→計画の流れがとても見やすいということと、注意事項については、教育出版のほうが大きく載ってるということはあったのですが、個々の単元のページできちんと注意ということで、見やすい場所に注意しなければいけない事項が書いてありましたので、そういった点も踏まえて大日本図書が良いと考えました。

○教育長　ありがとうございます。

○古笛委員　私は、最終的に大日本図書にしました。１番がやはり調査委員会と学校調査と検討委員会とで圧倒的に意見が一致していたというところが大きいです。そんなことも踏まえながら見させていただいたのですが、個人的には結構教育出版も面白いなと感じました。先ほど質問させていただいたとおり、問題解決のプロセスというのが、教育出版でも一番最初に学習の進め方と、それからノートの取り方とか丁寧に書かれているので迷いましたが、先ほど御説明いただいたとおり、大きさですとかイラストですとか、それから個々の分かりやすさという点で、先生方が選ばれた大日本図書で良いかと思いました。

また、１つ気になったところとしては、教育出版の中で６年の理科を一緒に学んでいくお友達ということで何人か登場人物が出てくるのですが、新宿区の場合には、肌の色や髪の色、名前もさまざまな子どもたちがいるので、典型的な日本人だけがお友達として出てくるのはどうなだろうと感じました。そこが残念に思いましたので、そういった点も踏まえて最終的に大日本図書にしました。

○教育長　ありがとうございます。

○年綱委員　私は、よく学校訪問に参加させていただいているのですが、そこで子どもたちの書いている理科のレポートを見させていただくことがあります。その上で、今回、大日本図書の教科書を見たときにドキッとしました。先生方もおっしゃっていたように、新宿区としてどうしていくかということに重きを置かれていたようですが、３年生でも観察、考える、分かったこと、結果ということをすごく重視していますし、それが明確になっているのはやはり大日本図書だなと感じました。本当に、子どもたちの書いていたものがそこにあったと言いますか、こうやって指導してくださっているんだなということが分かりましたのでそう思いました。

それから、自分の力で進めていく主体的能動ということを考えていくという上では、やはり大日本図書の教科書が新宿区には合っているのではないかと思いました。

○教育長　ありがとうございました。

○鴨川委員　よろしくお願いいたします。私も大日本図書のものが良いと思いました。

大きく３つの理由があります。１つは、これは保護者としてですが、Ａ４判で見やすいというのは、やはり児童にとって、特に理科嫌いの子どもにとって見やすくて、写真やイラストなどで工夫されているというのは、とても良いのではないかと思ったからです。

２つ目は、先ほどの説明にもございましたが、問題から結果、考察までのこの一連の問題解決のプロセスを全単元で徹底しているというのは、なかなか難しいことだと思いますが、そこにチャレンジされているというところが良いと思いました。どうして良いと思ったかと申し上げますと、やはり教員、特に若い教員が増えていく中で、その経験の差によらずに教育の質を一定程度確保するという意味で、そういったプロセスが全単元で徹底しているというのはとても良いのではないかと思いました。

あと、３番目の理由といたしましては、主体的に子どもたちが学びを展開していく上での材料として、二次元コードですとか、さまざま工夫を凝らされているという点が良いと思いました。以上３つの点から、大日本図書のものが良いと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

それでは、私からも一言発言させていただきます。

私も結論から申し上げますと、大日本図書が良いと思います。やはり問題の解決の学習の流れということで、問題があったときにまず予想を立てて、仮説を立ててということをよく科学の分野では言ったりしますが、予想を立ててどうやって計画して実験しようかと考える。そして、予想が外れた場合には何が違っていたのか、10のうち１つだけ違っていたら、何か条件が違ったのかといったことをしながら結論に導いていくと言いますか、何度もそれを繰り返しながら結論に導いていくというようなことは、理科に限らずこれから社会生活する上でもいろんな場面でこういった問題解決の技法みたいな形で役立つことがあるのだということが、単元ごとにきちんと大きな字で書かれており、目にも止まりやすく、こういうふうに考え方を身につけていくのだろうと感じました。

また、Ａ４判で迫力のある画像やイラストがあり、そういったものも豊富に載っているところなどから判断をさせていただきました。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。理科については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、大日本図書発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　ありがとうございます。

それでは、そのように進めさせていただきます。

次に、社会について説明をお願いいたします。

○統括指導主事　それでは、社会についての調査検討内容の説明をいたします。

まず、学校調査の結果についてです。Ａ評価が多かったのは、東京書籍で29校中13校、教育出版で29校中12校がＡ評価でした。調査委員会の調査結果は、教育出版が総合評価でＡでした。検討委員会では教育出版をＡ評価としました。

その理由・意見として、社会科の問題解決的な学習の流れが丁寧に示されており、分かりやすい。問いを生み出すための資料が多く使われていて良い。問いをもった後、教科書を見ながら児童が主体的に学習を進めることを大切にした構成が、児童にも教員にも使いやすいなどが挙げられていました。

また、検討委員会では、他発行者に関する意見として、例えば東京書籍では、問題解決的な学習を効率よく行えるような構成になっているなどが、良い点として挙げられていました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でＡ評価が多く、調査委員会評価でＡ評価であった教育出版をＡと評価いたしました。

○教育長　説明が終わりました。御質問がありましたらお願いします。

○古笛委員　教育出版で、新宿区の副読本と同じ単元構成になっているという御意見があったのですが、具体的にどこを見れば分かるでしょうか、教えていただけたらと思います。

○統括指導主事　副読本は、小学校３年生が使用しています。教育委員会では、区内の学習に関して副読本を作成しておりまして、３年生の社会科の目次を見ていただくと、単元の流れが区の副読本と同じということがお分かりいただけると思います。

○教育長　よろしいですか。

○古笛委員　はい。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。それでは、山下教育長職務代理者からお願いをいたします。

○山下委員　結論から申し上げますと、私は教育出版の教科書が良いと思いました。

まず、分冊については軽くて良いかなとも思ったのですが、合冊は、実際に教員が教えるときに、振り返りがしやすい、以前こういう単元で学んだよねということがやりやすいというのはあるだろうなと思いました。また、自分の子どもを見ていますと、分冊の場合、失くしたりということは大いにあるなと感じました。合冊であっても、かばんの重さなどを考えたときに、５・６年生であれば大丈夫だろうと思います。

また、さすがに全部は見切れませんでしたが、英語もそうですが、教育出版は登場人物に車椅子の子がいたりですとか、海外の子どもいて、非常に今の御時世に合ったと言いますか、新宿区に合っているなと思いました。

あと、最初に載っている領土問題のところを見ますと、教育出版のほうがしっかり書かれていて、丁寧に指導できるような形になっているなと思いました。あと、これはデザインの問題ですが、東京書籍は、生徒の言葉と説明の言葉が同じフォントで書かれていて、ぱっと見たときにどちらがどちらか分かりにくいかなと思いました。教育出版は、吹き出しになっていたりですとか、分かれているので、これは子どもの意見で、こっちは全体の進行だなと

いうのが分かりやすいと感じました。

○教育長　ありがとうございました。

○星野委員　結論としましては、教育出版の教科書を選びました。

５・６年生を中心に見たのですが、少し重いというのはあるかもしれませんが、合冊になっていたほうが後から振り返りやすいというのがありましたので、やはり合冊で良いだろうと思いました。

あとは、細かいところで言いますと、どちらかというと、教育出版は、何となくレイアウトがごちゃごちゃした感じがあったのですが、資料という点で見ますと、資料がまとまって載っているので、資料を見たいときにはまとめて見れるというメリットがあるかなと思います。一方、東京書籍は、本文が真ん中にあって見やすいのですが、資料がそばにあり過ぎて、その分、行が少ないだろうという感じがしました。

ただ、そのあたりはあくまで私の感覚ですので、学校現場での使いやすさはどうなだろうと思って見たところ、学校評価では東京書籍と教育出版がほぼ同数だということで、これはどっちにしようかなと考えたのですが、やはり調査委員会や検討委員会の御意見を尊重するのが良いだろうと思いましたので、教育出版にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○古笛委員　私も最終的に東京書籍と教育出版で迷いましたが、教育出版にさせていただきました。

先ほど御質問させていただいたとおり、副読本と同じ単元構成というのは、特に３年生にとっては分かりやすいだろうというところと、それから、何といっても調査委員会と検討委員会とが一致してＡをつけているところは重要であると思います。ただ、学校調査では東京書籍のほうが若干ですが数は上回っていましたので、そこは少し迷ったのですが、それぞれ本当に甲乙つけ難いところではありましたが、最終的に教育出版にしました。

インデックスで、つかむ、調べる、まとめる、つなげるというのは、私が他発行者と比較しながら見たいと思ったときでも分かりやすかったので、子どもたちにとっても分かりやすいだろうと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○年綱委員　私も教育出版が良いと思いました。今の時代、問題解決的な学習ということにおいてはどちらも、そういう教科書になっているなと思いましたし、主体的に学ぶという点においても、どちらの発行者もそうなのだろうと思いましたが、やはり子どもが１学期が終わ

ると教科書を捨ててしまう家庭もあるのも事実です。先生が３学期に持ってきなさいと言ったときに、処分したのでありませんという声も実際にありますので、１冊になっているということはすごく良いことだなと思いましたし、振り返って自分が見たいと思ったときに、子どもが振り返って学習ができるのではないかなということを思っていたところ、やはり検討委員会そういった意見が出ておりましたので、私は教育出版が良いと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○鴨川委員　よろしくお願いいたします。私も教育出版が最もふさわしいと考えています。短く４つ申し上げます。

１つが、インデックスがあるというところが、やはり見やすさという意味で分かりやすかったです。２つ目は、３年生の教科書を特に拝見したところ、初めて生活科から社会科に変わる中で、新宿区の副読本と同じ単元構成になっているというのは重要なことではないかなと思いました。３つ目は、先ほど委員がおっしゃっていたとおり、自分で調べて考えるという主体的な学びに対して、どの発行者も資料がとても多かったのですが、特に多様な資料を提示しているような印象をもちました。４つ目は、ＳＤＧｓに関する取扱いです。取扱いの多さという意味では、他発行者で多く取り扱っているものがありましたが、特に冒頭で最初のページにＳＤＧｓとつなげて考えようというページが全ての学年でありましたので、ＳＤＧｓから取っかかりに社会科に入っていくという子どもたちもいるのではないかと思ったときに、どのページを見れば良いかというのがすごく分かりやすかったという意味で、４つ目にその点も良いと思いまして、教育出版を最もふさわしいと考えました。

○教育長　ありがとうございます。

私からも一言申し上げます。私も結果として教育出版が良いと思います。

学校調査では拮抗したところではございましたが、調査委員会、それから検討委員会では教育出版が推されているといったこと、それから、意見等の中で、問いを生み出すための資料が多く使われていて良いということがありまして、何が問題なのかということを発見できるようなつくりになっていることや、教科書を見ながら主体的に学習を進めることを大切にした構成が子どもにも教員も使いやすいといった評価もありましたので、教育出版が良いと考えます。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。社会については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、教育出版発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　ありがとうございます。

それでは、そのように進めてまいります。

次に、地図について説明をお願いいたします。

○統括指導主事　それでは、地図についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もＡ評価が多かったのは帝国書院で、29校中16校がＡ評価でした。調査委員会の調査結果では、帝国書院が総合評価でＡでした。検討委員会では、帝国書院をＡ評価としました。

その理由、意見として、見やすさ・分かりやすさが圧倒的で、特に土地の高さや土地利用は大変分かりやすい。情報量が適切で見やすく、見つけたいものがすぐに見つけられるなどが挙げられていました。

また、検討委員会では、東京書籍に関する意見として、写真、絵、図が豊富に使われており、内容が良いなどが良い点として挙げられていました。最終的に、検討委員会として学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でＡ評価が最も多く、調査委員会評価でＡ評価であった帝国書院をＡと評価いたしました。

○教育長　説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いいたします。

○山下委員　基本的なところで申し訳ないのですが、何年度版の地図なのか、最新版の地図なのかどうかというのは、地図帳のどこを見れば書いてあるのでしょうか。

○統括指導主事　基本的に地図も統計資料も最新のものに更新されていると思うのですが、特に統計資料に関しては、毎年更新されますので、地図帳はかなり多くの統計資料を掲載していますので、グラフや図といったものに関しては、いつ出されているものなのかということは、ある程度示されていると思います。

○山下委員　これは毎年更新されるものですか。

○統括指導主事　帝国書院の裏表紙に地図の出典というところがございます。例えば、市区町村の名前ですとかそういったものは、国土行政区画総覧を基にしていて、いつからいつまでに官報に告示されたものですとか、いつからいつまでに施行されるものを掲載したといったように、ある程度明らかになっているものは示されているかと思います。

○山下委員　ありがとうございます。

○教育長　よろしいですか。

○山下委員　はい。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。山下教育長職務代理者、お願いいたします。

○山下委員　正直すごく迷いました。帝国書院は、やはり私もすごく見慣れた感じがして、落ち着いて使いやすい。それに対して、東京書籍は、分かりやすいイラストや資料が完備されているなと感じました。また、色合いで言いますと、帝国書院のほうが少し淡いと申し上げますか、目に優しい色で、私はそろそろ年のせいか、あまり激しい色を見ていると少し疲れてきますので、地図というのはじっくり見て調べると思いますので、こういう落ち着いた色のほうが良いだろうと思いました。

先ほど、なぜ何年度版の地図なのかという話を申し上げたかといいますと、例えば地名については、市町村合併などで変わることがありますので、それが気になってお伺いしました。というのも、私の実家について大日本図書の地図を見たのですが、私の実家は津田町からさぬき市に変わっているはずなのですが、地図には津田と書かれたままでしたので、質問してみました。ページが変われば、さぬき市と書いていあったのですが、46ページのアの６にさぬき市ではなく津田と書いてあったので、少し気になっただけです。

話を戻しまして、東京書籍の良いところは、例えば30ページにさまざまなものを書き込めるようににっていたりですとか、子どもたちが楽しめるような、手を動かして学べるような仕組みになっているのはとても良いかなと思います。

どちらにも良さはあったのですが、やはり統計資料の豊かさなどを考えて、私は帝国書院が良いと思っております。特に最後の都道府県の名前の覚え方などは、子どもたちがつまずく部分をうまくつかんでいるなと感じました。

○教育長　ありがとうございます。

○星野委員　私は帝国書院にいたしました。やはり帝国書院の地図は見慣れているというのがありまして、つまらないことかもしれませんが、東京書籍は、県の境目がすごく目立っていて、逆に少し見にくいかなと感じました。もちろん都道府県の区切り知るのは大切なことだと思いますが、長く使う地図ということを考えると、ここまで強調しなくても良いだろうと思いました。あとは、高さについて、しっかりと等高線のある国土地理院の地図ではないの

で、帝国書院のように、色で見分けがつくというのはとても良いことだと思います。

統計資料等に関しましては、前回の選定のときも、東京書籍が肉薄してどうしようかという意見が出ていたように思いますが、今回、帝国書院もかなり頑張って載せてきたなという感じがしましたので、見やすさ等を鑑みまして帝国書院にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○古笛委員　私も最終的には、帝国書院にいたしました。正直なところ、帝国書院は、やはり昔から見慣れているのというのがありますので、逆に、見やすいのは大人の目線だけであって、子どもたちは本当に見やすいと思っているのだろうか、というのが気になりました。大人は、はっきりしていて見にくいと感じても、実は子どもたちはカラフルなほうが好きなのではないかとも思ったのですが、調査委員会も学校調査も検討委員会も意見が一致しており、それを覆すほどの自信はないので、帝国書院にさせていただきました。

でも、個人的には、東京書籍の地図は私はとても面白く拝見させていただいて、イギリスがＥＵを離脱したのが何年で、ＥＵに加盟している国はどこでというようなをことが書かれていたりですとか、ハザードマップのことですとか、面白い情報がさまざま載っていたので、あともう少しだなと思いながら、最終的には帝国書院にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○年綱委員　私も帝国書院が良いと思いました。見慣れているということは確かに古笛委員がおっしゃったとおりですが、子どもにとってどうかなと思ったときに、学年の学習内容にしっかり対応していて、子どもの発達に非常に即しているなと感じました。３年生、４年生、５年生、６年生と、６年生は中学生に向けてということも意識しながら、各学年に対応してくださっているという点が１つと、また、子どもにとって何が見つけやすいかということや、楽しく見つけられるかということを考えたときに、やはり帝国書院のほうが私は良いのではないかと思い、帝国書院にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○鴨川委員　よろしくお願いします。私も帝国書院がふさわしいと考えています。

理由は３点ありまして、１点目は、３年生からこの地図を使うと思いますが、最初のほうのページでは、あまり情報が多過ぎなくて、線も多く引かれてないような地図から始まっていて、導入しやすくなっているという点が良いと思いました。

２点目は、東京都の地図の出し方が、この２者では違っていました。帝国書院は、東京都全図で示していて、東京書籍は、23区ですとか首都に特化した形で出されていたのですが、

東京都が実は島しょ部も山間部もあるんだということが出されているのは、とても良いのではないかと考えました。特に23区のど真ん中に住んでいる新宿区の子どもにとっては、そういう地図の広がりが分かったほうが良いだろうと思いました。

３点目は、歴史と地図をリンクさせたような表し方について、これは両者とも工夫されていたように思いますが、帝国書院のほうがよりふさわしいと感じました。

ちなみに余談ですが、私は教科書の中で地図が最も好きです。大学進学の際、バッグに地図帳だけを入れて上京したほどに地図帳が好きです。ですので、かなり思い入れを込めて申し上げさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。地図帳が好きな鴨川委員の御意見を伺うことができました。

私からも一言申し上げますと、私も帝国書院が良いだろうと思いました。東京書籍は、ページ数で言いますと、30ページほど帝国書院と比べて少ないので、そういった意味では軽量化と言いますか、コンパクトにまとめられていると感じもしましたが、実際に地図を見てみますと、山間部の表示などが、帝国書院のほうがすっと浮き出ていると言いますか、立体的に見えるような感じがしまして、さまざま工夫されているなと分かりました。

また、学校調査におきましても、帝国書院を推す声が多かったことも踏まえまして、帝国書院が良いと考えました。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。地図については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、帝国書院発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　それでは、そのように進めたいと思います。

それでは、次に、生活について説明をお願いいたします。

○統括指導主事　では、生活についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。Ａ評価が多かったのは東京書籍と光村図書で、29校中13校がＡ評価でした。

調査委員会の調査結果は、光村図書が総合評価でＡでした。

検討委員会では、光村図書をＡ評価としました。その理由、意見として、児童が自ら見通しをもてるように内容構成が組まれており、振り返りまで思考がつながるようになっている児童の関心を引きつけるインパクトのある表現がされている。発想を豊かに広げられるような工夫が見られるなどが挙げられていました。

また、検討委員会では、東京書籍に対する意見として、紙面の構成や学習の流れが分かりやすいなどが良い点として挙げられていました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえて教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でＡ評価が多く、調査委員会評価でＡ評価であった光村図書をＡと評価しました。

○教育長　説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いいたします。

○山下委員　基本的なところを聞いてよろしいでしょうか。

○教育長　はい。

○山下委員　この生活科というのは、一昔前ですと理科と社会を併せたものという印象だったのですが、今回教科書を拝見させていただくと、むしろ身の回りのことについて学ぶ教科という印象を受けましたが、実際の授業では、理科や社会への入り口として教えているのか、それとも全く別の教科として教えているのかお伺いできますでしょうか。

○統括指導主事　学習の対象が、例えば自然事象ですとか自分の身近な学校やまちということで、そういう意味では理科、社会の要素はございます。それから、調べたことを何かにまとめたりですとか、そういった活動の部分でも理科、社会に通じるところはございます。基本的には理科、社会をそのままということではなくて、あくまでも生活科として身の回りとそれから自分自身の成長、そういったものに子どもたちが気づきを広げ、自立していくという、そういった教科であると捉えています。

○山下委員　ありがとうございます。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

○古笛委員　別冊が上下とも付いているのですが、先ほど別の教科で、分冊だと失くしてしまう子どもがいるので良くないという議論があったかと思います。別冊についても教科書と分かれていますので、１・２年生ですと失くしてしまわないか少し心配に思いますが、この点について先生方の意見はどうだったでしょうか。

○統括指導主事　先生によって御意見はさまざまですが、生活科の場合、その学習のフィールドは教室にとどまりません。その際に、例えば分冊のものを持って屋外に行く時の使い勝手の良さ、学習のフィールドが教室内にとどまらないという意味では、生活科の特性に分冊というのはある程度合っているだろう、といった意見は出ておりました。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

生活科は身近な場所で、また、フィールドへ飛び出していくなどといったお話があったと

ころですが、生活科の教科書のタイトルについては発行者ごとに多様で、「あたらしい　せいかつ」、「どきどき　わくわく」、「あしたへ　ジャンプ」、「せいかつ　たんけんたい」、「たのしい　せいかつ」、「わくわく」、「いきいき」など、各発行者で工夫されているように感じましたが、そういった教科書のタイトルについて、検討委員会では何か話題になりましたでしょうか。

○統括指導主事　検討委員会で教科書のタイトルについての意見は特に無かったと思いますが、例えばイラストなどについて、子どもが学びに対して関心を抱けるか、子どもの言葉で言うわくわくどきどき、そういたものを感じることができるつくりになっているか、といったことは話題になっていました。おそらく、教科書のタイトルよりも、掲載されている写真ですとかイラストですとか、そういったところに子どもたちの関心が高まるきっかけがあるのではないか、といったことは話題にはなっておりました。

○教育長　ありがとうございます。

関連してもう一つ伺います。光村図書は、他発行者に比べて、主にイラストを中心として作られている印象を受けましたが、これは新しい工夫なのでしょうか。

○統括指導主事　現在、光村図書が発行している教科書とは、つくりとしては大きく異なっているものだろうと思います。

○教育長　ほかに御質問などございますでしょうか。

○山下委員　先ほども聞いたんですが、この生活科もやはり教科書を中心に授業を構成していくのでしょうか。

○統括指導主事　先ほど皆様に御覧になっていただいた社会科ですと、教科書に掲載された中心資料を基に読み取って問いをつくるとか、そういった流れが一般的にありますが、生活科は、どちらかというと、学習対象と同じようなものが掲載されてはいるんですが、教科書に沿ってそれを順に追って教えていくというというよりは、子どもたちが行う活動の流れの例ですとか、子どもたちの気づきの例は書かれていますが、その通り進めるというよりは、子どもたちがより気づきを深めるため、広げるためのきっかけとなるようなイラストなり資料なり流れというものが教科書の中に掲載されているものが多いです。ですから、これを必ずここで教えてくださいとか、そういったものとは異なると思います。

○教育長　ほかにいかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各

委員の御意見を確認したいと思います。それでは、例によりまして山下教育長職務代理者からお願いいたします。

○山下委員　私は光村図書が良いと思いました。正直、光村図書はすごいな、よくぞこういう教科書を作ってくれたなと感じました。私は全ての発行者の教科書を読ませていただいたのですが、発行者によって結構内容が異なっていて、ある題材について扱っているものと扱っていないものがあったり、こういう観点で作られているなということが分かったり、非常に勉強になりました。遊ぶおもちゃを作ることを中心にしていたり、まち探検を中心にしていたりするものもありました。

その中で、光村図書を拝見して感じたことは、子どもの視点に非常に立っているということです。それが良いか悪いかの判断は少し難しい部分もありますが、子どもが光村図書の教科書を見てどう思うかという意味では、非常に意味があると思いました。特に、親が考えた子どものせりふではなく、ヨシタケさん特有の子どもの目線から見たいろんな疑問、質問というのが、イラストで描かれているのは非常に斬新でした。ただ、こんなことあったかなと振り返ろうというイラストは、これをそんなに見るかなと少し感じました。どのページにも書いてあったのですが、このイラストよりも、この横に書いているイラストなり、子どもがしゃべっているメッセージを子どもたちは見ながら、自分の今の生活と照らし合わせながら学んでいくのだろうと感じながら拝見しました。また、例えば探検に行くときにムカデやスズメバチがいたら注意しましょうなど、危険なものについてしっかり書かれているのも良いと感じました。さらに、別冊についても、拝見していて非常に良い内容だと思いました。

次に、東京書籍も拝見しましたが、これは教室でみんなでどう過ごすかというのは非常にきれいにまとまっていて、公園でみんなで遊んでいるところを上から俯瞰して何かを見つけているというような書かれ方をされていたのが、私はとても落ち着きました。光村図書のほうが、どちらかというと個人と言いますか、人を中心に、子どもを中心に書かれているのに対して、東京書籍のほうは教室全体と言いますか、仲間を全体に出しているという意味で、私はどちらの教科書もしっかり意図をもって作成されていることを強く感じました。

両者それぞれ良さがあるのですが、光村図書はイラストが非常に可愛らしく書かれているというところもありまして、今回は光村図書を私は推したいと思います。

ちなみに、後ろの「教科書を使う皆さんへ」は、二次元コードが書かれていますが、これはこれは使い方が載っているのでしょうか。

○教育長　この二次元コードを読み取ると何が書かれてあるか分かりますでしょうか。

○山下委員　何か、学校で使う日本語と書かれています。自宅で見ればよかったのですが、すみません。何か特別ことが書いてありそうだったので気になってしまいました。後で見ておきます。

○教育長　統括指導主事、分かりますか。

○山下委員　今見れました。とても大切なことが書かれていますね。

○統括指導主事　そうですね。私も今見れたところですが、大人向けかと思いましたら決してそうではなくて、子どももみんなで考えたい大切なこととして、１年生からということで、例えばタブレットを使うときや、今コロナも落ち着いてきてはいますが、感染症対策や、ＳＤＧｓを１年生にどう教えるかといったときに、そういったものが分かりやすく、それから学校で使う言葉ということで、日本語や英語、さまざまな国の言語、そういったものが掲載されておりまして、みんなで一緒に考えましょうというような、きっかけになるような資料が掲載されておりました。

○山下委員　分かりました。ありがとうございます。

○教育長　ありがとうございました。

○教育長　続いて、お願いします。

○星野委員　私も、結論としては光村図書にいたしました。

まず、レイアウト見たとき、光村図書は縦並びになっていて、視線をあまり動かす必要がなく見やすいということと、やはり毎単元に「ふりかえろう」という記載があるので、単元ごとに考えをまとめやすいという点が良いと思いました。

また、外での活動等の際の安全対策について、東京書籍と比較しながら見たのですが、東京書籍は安全に対する工夫がに各ページに載っています。光村図書の場合は、１か所にまとまって載っているので、活動ごとの安全対策が少し分かりにくいかなと感じました。

さらに、守るべきお約束事に関しても、東京書籍は、例えばお店で何か見せてもらう際に一言声をかけるとか、突然写真を撮ってはいけいないということが、単元ごとのページに書いてありました。ただ、残念ながら説明文がなく、イラストしかないので、果たして子どもがきちんと理解できるのかなと少し疑問に思いました。一方、光村図書は、後ろのページにまとめて載っているのですが、少しお約束事の項目が少なめかなと感じましたので、正直、両者とも拮抗していたのですが、私は、医者の立場として、現在のＧＩＧＡスクール構想の中で、タブレットやパソコンをあまり使い過ぎるのは良くないと考えておりまして、その点で、東京書籍は、光村図書に比べて、パソコンやインターネットを使う場面が多く記載され

ているように感じましたので、そういった点も踏まえて、最終的に私は光村図書にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○古笛委員　私も大変迷いましたが、最終的には光村図書で良いと思いました。

やはり調査委員会、学校調査、検討委員会の全てで一貫して高い評価がなされているというところと、振り返りしやすいという部分が、生活科という教科にとって良いのだろうと思いました。

また、正直、今回の光村図書の教科書は非常にインパクトがありました。こういう教科書を初めて見たという感覚がありましたので、逆に注意して見させていただいたのですが、私が見ていても面白いなと感じる部分が多くありましたので、子どもたちも面白く受け止めてくれるといいなと思いました。

それから、どの発行者でもそうですが、最近の教科書は、お父さんがお皿を洗っているというのが当たり前に登場してきたり、車椅子のお友達や肌の色の違うお友達など、いろんなお友達が出てきたりしますので、光村図書の中でもそういうイラストがもう少しあってもいいのになとは思いましたが、最終的に光村図書にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○年綱委員　私も東京書籍と光村図書で悩みました。東京書籍の教科書を見たときに、今の学校で行われている教育そのものだなと感じました。一方で、光村図書の教科書を見たときに、他の委員の方もおっしゃるように、インパクトと言いますか、非常にわくわくどきどきしました。

調査委員会の先生もおっしゃっていましたが、私はやはり生活科という教科は、幼稚園教育があった上に成り立つものであって、それが発展して生活科になり、それがまた発展して総合的な学習につながっていくものだと思っています。子どもたちの主体性ということをよく言いますが、それを育てるための素地が生活科だと思いますので、その点を考えたときに、やはりこのわくわくどきどき感は重要だと感じましたし、子どもたちが主体的に物事を考えるという流れが光村図書の教科書にはあると思いました。非常に悩んだのですが、やはりわくわくどきどき感、それが低学年には一番大事だと思いますので、最終的に光村図書にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございました。

○鴨川委員　よろしくお願いいたします。私も光村図書がふさわしいと考えております。

もう既に全て各委員の皆様方がおっしゃったとおりで、繰り返しになりますが、先ほど年綱委員がおっしゃったように、わくわくどきどき感という点では、表紙を見た瞬間に、あっ、してやられたなという感じがして、非常に新しいタイプの教科書だなと思いました。特にデザインで見たときに、引き算の美学と言いますか、低学年の子どもが興味をもって学ぶことができるように、掲載している内容は決して多くはないのですが、きちんと必要な内容が盛り込まれているような印象を受けました。

また、１ページの中に振り返りまできちんと書いてあり、低学年ですと、問いは立てたものの振り返りで全然違うことを言ってしまうとか、結論で違うことを言ってしまうことがあるかもしれませんが、そうならないように、見開き１ページの中でちゃんと軌道修正ができるようになっているという点が良いと思いました。

それから、別冊も良くできていると感じましたし、特に別冊が作られている素材も工夫されていて、フィールドワークの際に、濡らしたり汚れたりしても、破れないような素材になっていて、よく考えられているなと感じました。

以上から、光村図書の教科書が最もふさわしいと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

私も光村図書が良いと思いました。

１つは、先ほどタイトルについて質問させていただきましたが、私は「たんけんたい」という言葉が好きと言いますか、探検という言葉は、非常にどきどきわくわくするなと思っています。探検というと、知らないところに出かけて自分で何かを切り開いていくというイメージもあり、そういったイメージとイラストとがうまく合っていると感じました。また、それぞれのページにある、星野委員もおっしゃっていました「ふりかえろう」のイラストも可愛らしくて、授業の中で先生もここに触れてくれるでしょうし、子ども自身がこれを見て、あっ、そういえばこんなことを学んだなと振り返ってもらえるだろうとも思いましたので、子どもにとって大変手に取ってもらいやすい教科書ではないかと思いました。

それから、それぞれの最後のページで、「上」の教科書では、大好き、探しに出かけよう、「下」の教科書では、来年度３年生になることを意識して、新しい気持ちを集めていこう、君は毎日生活しながらどんどん君らしくなっていくんだ、という非常に肯定的な言葉で締めくくられていて、次への希望と言いますか、楽しみにつなげているような記述があり、大変好感をもてました。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。生活については、本日の協議を

踏まえ、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　それでは、そのように進めたいと思います。

次に、英語について説明をお願いいたします。

○統括指導主事　それでは、英語についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もＡ評価が多かったのは東京書籍で、29校中13校がＡ評価でした。調査委員会の調査結果は、開隆堂出版と教育出版が総合評価でＡでした。検討委員会では、教育出版をＡ評価としました。

その理由、意見として、活動の自由度が高く、児童や教師の必要感や思いを取り入れやすい。児童が英語に興味・関心をもてるような内容であるなどが挙げられていました。

また、検討委員会では、東京書籍に関する意見として、書く活動が多く、内容がスモールステップで構成されている。開隆堂出版、活動内容が豊富で、こちらもスモールステップで構成されているなどが良い点として挙げられました。

最終的に、検討委員会として学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、調査委員会評価でＡ評価であった教育出版をＡと評価しました。

○教育長　説明が終わりました。御質問がありましたらお願いいたします。

○古笛委員　教育出版について、活動の自由度が高く、児童や教師の必要感や思いを取り入れやすいという御説明をいただいたのですが、先ほど別の教科では、教員の指導力という話で、不慣れな教員にも使いやすい教科書が良いというお話もあったかと思いますが、そういった点は英語では気にならないのでしょうか。

○統括指導主事　こちらについては、それぞれの教科書の良さとしてさまざま議論されたのですが、例えば学校評価の高かった東京書籍は、かなり細かく活動の内容が書かれていて、それに応じて子どもが書き込む欄もかなり多くあり、それが良いという意見もありました。一方で英語、外国語という教科の特性を考えたときに、特に小学校の英語は慣れ親しむということが重要で、あまり多く書かせるよりは、ゲームやチャンツ、さまざまな活動を通じて、まずは英語を好きになってもらうことに重きを置くほうが良いのではないか、そうしたときに、教育出版のようにある程度自由度が高い教科書のほうが進めやすいのではないかという意見が出ました。

○教育長　よろしいでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。

○山下委員　現在は東京書籍の教科書を使用していると思いますが、現在の教科書と今回の見本本を比較して、書くことや話すことの量は同じくらいなのでしょうか。

○統括指導主事　場面や単元によっては、確かに同じような量の場合もありますが、この部分については一番、調査委員会調査で評価が分かれたところでした。通して見ていくと、書く量は東京書籍がかなり多く、一方、開隆堂出版は教育出版と東京書籍の間くらいの書く量だということで、調査委員会の皆様は、やり切れるかという心配があったとのことです。これは授業の中、先生方は必ず空欄がないように書かせなければいけないと思ってしまうので、子どもたちが体を動かしながら歌を歌ったりゲームをしたりという豊富な活動の中で、これを全部書かせられるかというのが一番の心配としてあるからだと思います。ある程度先生の裁量で授業を展開できるよう、書く量はあまり多くないほうが良いのではないかというのが調査委員会であった意見です。検討委員会では、そうした実際の授業の場面にも照らしたときに、書く量はそこまで多くないほうが良いという判断のもと、教育出版をＡにしたという背景がございます。

○教育指導課長　今、統括指導主事からあったとおりですが、学習指導要領の中で求められている外国語というのは、「話す」「聞く」のコミュニケーションを取るということが重視されています。その中で、この「書く」ことが多いということは、子どもたちに英語嫌いが出てくるのではないかという懸念が多あります。

先ほど、中学校に行くときに子どもたちが英語嫌いになってしまわないかというような心配のお声もあったのですが、中学校の先生から聞くと、英語が教科化したこと、あるいは３・４年生で外国語活動ができたことで、子どもたちのコミュニケーション、つまり「話す」「聞く」といった能力が非常に高くて、授業を進めやすいというようなお話も聞いております。

中学校では「書く」ことに苦手意識が強いという子も多いところから、今お話があったとおり、「話す」「聞く」といった内容が豊富な教科書を選んだほうが良いのではないかというような意見が多くありました。

以上でございます。

○教育長　よろしいですか。

○山下委員　もう１点だけ、いいですか。

○教育長　どうぞ。

○山下委員　「Word Book」や「Picture Dictionary」は、多分授業で毎回使うものだと思います。これが、東京書籍と開隆堂出版には付いているのですが、教育出版は後ろのカードみたいな形で対応されているわけですよね。カードだと少し使いにくいかなと思ったのですが、実際の授業でこの「Picture Dictionary」などはどのように使われていますでしょうか。

○統括指導主事　活動によってくるところはあると思いますが、いつでも振り返ることができるという良さは、こちらの分冊版のほうがあるだろうと思います。

一方で、カードを使ってゲームをしたり、机の上に並べたりという活動が多いのも英語の特徴でして、こちらが良いという意見も当然多くありましたし、教育出版のようにカードになっていると授業準備が大分効率化されるという意味で、カードになっている方が使いやすいという意見もありました。

ただ、どちらかが極端に良い評価を得ていたというより、どちらも一長一短があって、それぞれに良さがあるというような評価でした。

○山下委員　ありがとうございます。

○教育長　よろしいですか。

○山下委員　はい。

○教育長　ほかに御質問などいかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長　ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員から御意見をいただきたいと思います。山下教育長職務代理者、お願いいたします。

○山下委員　説明ありがとうございます。英語は本当に悩みました。どれもよくできていますよね。あとは、どう教えるかという部分で、観点を幾つか出しました。まず、私が英語の先生として教えるならどれが使いやす良いかという観点です。私が英語を教えるなら「Picture Dictionary」は必要だと思いました。カードだと失くす人が続出して、２回目以後使えないということが、小学生だったらあるかなと思いました。

また、書く量の観点ですが、並べてみると、東京書籍は確かに書くところが非常に多いと思いました。話すことも大事ですが、例えばインターネットなどでテキストコミュニケーションが多くなっている現代で、書くことが苦手なままでは困るので、そういうことをどこで解消していくかを考えました。今の教育方針では、中学生になったら書くことが増えていきますが、そうなると中学校に入った段階で英語嫌いになるということもあるので、これをど

う解消していくかということです。あとは、教科書の内容、教えやすさはどうかという観点ももちながら見ました。

こちらに頂いた調査報告書のワード数や単元数を見ていると、教育出版は数字上、他発行者の半分くらいで、私が感じている以上に少なく、少し不安に感じました。今の新宿区の英語の授業と比べてすごく量が少なくなるのではないかという懸念があります。また、学校調査で今の東京書籍の評価が非常に高いということを考えると、現場の先生は東京書籍のような形式のほうが使いやすいのではないかという懸念もありましたが、私が先生としてどの教科書で英語を教えたいかというと、開隆堂出版が一番教えやすいなと思いました。なぜかというと、まず、東京書籍は細い文字が多く難しく感じますが、開隆堂出版はイラストも多く文字も大きいので、抵抗感がないと思ったからです。

また、教育出版は、やはり「Picture Dictionary」がないので、カードの場合の紛失する可能性も考え、私は開隆堂出版が良いと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○星野委員　英語に関しては、開隆堂出版、東京書籍、教育出版を中心に拝見しました。

その中で、東京書籍と教育出版を中心に見ていったのですが、東京書籍は単語数が多く、アクセントの位置などがしっかり書いてあり、また「Picture Dictionary」があることが良いと思いました。５・６年生になったら、体の部位くらいは英語で言えないと困ると思うのですが、教育出版をざっと見たところ、体の部位が書かれていなかったと思います。

ただ、先ほど質問させていただいたのですが、英語の授業に何が必要かと考えたとき、初期段階であれば「話す」「聞く」が大事になるので、そうなると教育出版が良いと思いますし、高学年になり「書く」ことも必要となると、東京書籍か開隆堂出版が良いと思いました。大変悩みましたが、「話す」「聞く」を中心に教えるということであれば教育出版かと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○古笛委員　私は、東京書籍が良いと先ほどまで思っていまして、東京書籍は今使っている学校における調査で13校がＡをつけたということなので、そこに不安はないのだろうとは思いました。しかし、検討委員会の、なぜ教育出版がＡなのかというお話を伺って、また英語嫌いの私として、最初からこの教科書で始まったら少し難しく感じるのではないかと考え、中学校につなげるという意味で、むしろ英語を好きになってもらうということを考えたときに、どちらの教科書か考えると、教育出版かと思いました。検討委員会の報告にもありましたが、

自由度が高いということを考えたとき、それをひっくり返すだけの理由はないかと思い、最終的に中学校へのステップアップのための小学校の教科書をということで、教育出版にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○年綱委員　古笛先生以上に英語嫌いの私としましては、小学校はやはり楽しくわくわくして、英語って面白いな、やりたいなという気持ちになって学んでほしいと思っていて、私のように英語嫌いになってほしくないというのが一番でした。そのような視点で見たときに、単語数が少ない教育出版は、どうだろうかと思ったのですが、単語数より、やはり楽しくて、わくわくして、話したくてと、そのような気持ちになる教科書のほうが良いのではないかと思いました。

中学校に学校訪問へ行ったときに、今の中学校がすごいなと思ったのは、子どもたちが照れもなく話すことができ、ＡＬＴの話もよく聞けるというところです。また、タブレットを使って報告書を書いたり、自分の地域を説明したり、世界遺産を説明したり、そのような力もあるので、まず小学校は楽しくて、英語がやりたい、英語の時間がいいなと思ってほしいという気持ちを込めて、教育出版にさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○鴨川委員　ご説明ありがとうございます。私も教育出版がふさわしいと考えています。

私は英語がとても好きなもので、また専門分野柄、国際教育を専門にしているので海外にも行くことで多いのですが、古笛委員や年綱委員がおっしゃったことと私も同じで、５・６年生のときに少なくとも英語を嫌いにはならないでほしいと思っています。その意味では専門家の先生方、委員会の先生方が分量が適切だとおっしゃった教育出版のものが良いのではないかというのが１つの点です。

もう一つは、内容面で多様性というところにすごく重きを置いている点も好感がもてました。つまり、単に外国とかジェンダーとかということだけではなく、アメリカの手話を英語で教えるということなどは、ダイバーシティーとインクルージョンを掛け合わせたようなところまでを突っ込んで教えていて、これからの教科書という意味で良いのではないかと思いました。

以上、２点から教育出版がふさわしいと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

私も教育出版が良いと思いました。イラストに多様な登場人物が出てくるといったことも

ありましたし、表紙を開けて見ますと５年生から６年生、６年生から中学生へというような流れが一目で分かるということ、それから、学校訪問で実際に見ていますと、現在の活動の中心となっているのは、やはり「話す」「聞く」ということだろうということも思いまして、教育出版が良いのではないかと思ったところでございます。

それでは、他にご意見がなければ、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行いたいと思います。英語については、本日の協議を踏まえ、開隆堂出版発行の教科用図書と、教育出版発行の教科用図書が、優れているという皆様のご意見であったと思います。この２種を採択の対象となる教科用図書の候補として考えるということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長　ありがとうございます。それでは、次回以降の教育委員会において、最終的に１種に採択対象の候補を絞り込みたいと思いますので、それまでに皆様のご意見をまとめておいていただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○山下委員　１点だけ聞き忘れたのですが、質問してよろしいでしょうか。

○教育長　はい。

○山下委員　今「書く」授業というのは、どのくらいやっているのでしょうか。例えば単語だけとか、チャンツとか、文章で書いているとか、いかがでしょうか。

○統括指導主事　いわゆる中学校の英語のように書く時間を相当取っているかというと、そうではなくて、活動の合間に書く時間も設けていくという、あくまでも活動の流れの中で「書く」というようなことが小学校では多いかと思います。

○山下委員　分かりました。ありがとうございます。

○教育長　よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○教育長　それでは、以上で本日の種目ごとの質疑と採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了といたします。

本日の協議は終了となりますが、事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長　特にございません。

○教育長　ありがとうございます。

◎　閉　　会

○教育長　それでは、本日の教育委員会を閉会とします。

ありがとうございました。

午後　４時０３分閉会